

研究集会テーマ 「ジャーナリズムとアジアのツーリズム」

日時：2017年11月11日（土）14：00～17：00

場所：清心館 525 教室

挨拶 藤巻正己（立命館大学）

講演①

吉松 孝氏（TVプロデューサー、番組司会者）

【タイトル】

「テレビコンテンツから読み解く中華圏メディア文化事情」

【概要】

中華圏各都市を往来しながらメディア業界での活動が続ける講師が、ドラマやバラエティといった中国テレビ番組や、時事ニュースから読み解ける中国の様々なエピソードをピックアップし、中国業界の特性や魅力を紹介する。その際、「中国語の特性（簡体字と繁体字、表意文字と表音文字）」「中国語学習アプローチ（日本人の中国語学習法）」「中華圏と米国テレビ業界の産業構造」「中国大陸、台湾のテレビ業界の舞台裏（日本の制作現場との差異）」「中華圏での旅グルメ番組制作プロセス」「中華圏、旅グルメ番組の特徴」「中華圏からのインバウンド事情」といった点に着目する。なお、比較対象の幅を広げるため、米国コメディ番組も参考材料として取り上げる。

講演②

安田峰俊氏（ノンフィクションライター）

【タイトル】

「現代中華民族ナショナリズムとツーリズム」

【概要】

2012年に成立した中国の習近平政権は党体制の引き締めと権力集中を進め、国民に向けて中華民族ナショナリズムの宣揚と、1980年代以降の中国ではタブーだった指導者の個人崇拜の動きを打ち出そうとしている。ここで注目したいのが、習近平が文革時に下放された陝西省の山村が「観光地」化され、新たなツーリズムの拠点に変わりつつあることだ。講演者の現地取材の結果を反映しつつ、その現状をご紹介したい。また、2017年春の韓国THAADミサイル配備にともない、中国国内では韓国旅行の自粛が図られ、中国人の海外旅行先の上位ランキングからも、前年までは常連だった韓国が姿を消すこととなった。年間に延べ1.2億人の海外旅行人口とGWだけで7億人規模の旅行人口を誇るツーリズム大国において、イデオロギー色の強い政権がもたらす新たなツーリズムの形とそのコントロールについて、概観する。